

# 講演会・シンポジウム

## 【学術講演会&現地見学会】

春季と秋季の年2回開催され、毎回約60編の一般講演のほか、シンポジウムや特別講演が企画される。また、秋の学術講演会では現地見学会も開催され、幅広く技術について意見交換が行われている。



第147回（2022年度秋季）会場の様子

## 【SEGJ国際シンポジウム&テクニカルツアー】

海外の物理探査学会との共催により、当学会主催のSEGJ国際シンポジウムを1990年から2～3年毎に開催している。テクニカルツアーも開催され、海外の研究者との意見交換が行われている。



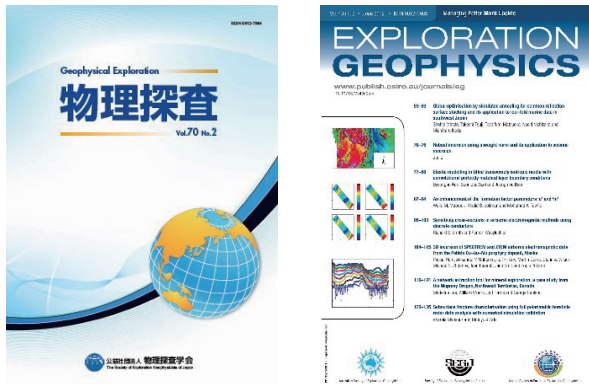
第147回（2022年度秋季）見学会（三内丸山遺跡）の様子

(物理探査ニュースNo.57)

# 学会誌・ニュース

## 【会誌「物理探査」】

物理探査技術および関連諸学問分野に関するさまざまな情報の発信を目的として、1948年より年6号発刊（2012年より年4号発刊）。論説・論文・ケーススタディ・技術報告・講座・解説・短報などを掲載している。2017年より電子化し、J-stageから閲覧できる。



## 【英文誌「Exploration Geophysics」】

オーストラリアおよび韓国の物理探査学会と共に英文誌「Exploration Geophysics」を2004年より発刊。ケーススタディ（野外調査などでの調査事例）、データ解釈技術、地下探査理論構築など、幅広い意味での「物理探査学や応用物理学」に基づく調査研究成果を提供。物理探査学会会員は、過去の論文をウェブサイトから閲覧できる。

(<https://segj.or.jp/publication/newsletter/>)



# 出版物

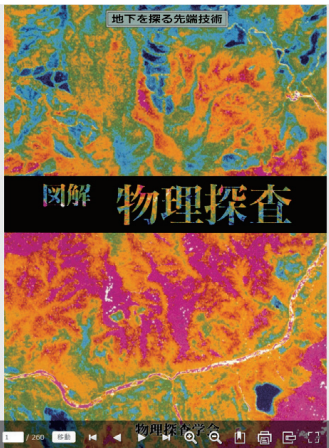
## 【物理探査ハンドブック】

（1998年初版発刊、2016年増補改訂版発刊、2023年第三版発刊）  
物理探査全般を網羅し、基礎理論からデータ取得技術、データ解析技術まで詳しく解説。探査手法の歴史から最新の技術動向まで紹介。物理探査のすべてが著された唯一の書物である。

第三版目次		
編	編名	
第0編	総論	
第1編	反射法地震探査	
第2編	屈折法地震探査・弾性波トモグラフィ	
第3編	マイクロサイズミックス	
第4編	微動・表面波探査・振動測定	
第5編	電気探査	
第6編	電磁探査	
第7編	地中レーダ	
第8編	重力探査	
第9編	磁気探査	
第10編	測地・リモートセンシング	
第11編	熱・温度探査	
第12編	放射能探査	
第13編 最新の物理探査技術	1章	物理探査(資源分野)
	2章	物理探査(建設分野)
	1章	VSP・ボアホールサイズミックス
	1章	統合物理探査
	2章	ロックフィックス
	3章	ドローン物理探査
	4章	地表NMR
	5章	ミュール粒子
	6章	DAS(分布型音響センシング)

## 【図解物理探査(HP)】

物理探査の原理や応用を絵を多く用いて平易に紹介する解説書で、学会ホームページで閲覧できる。

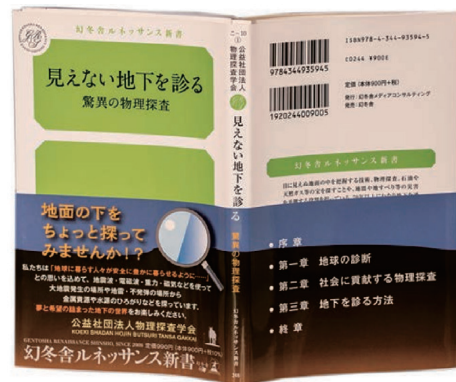


## 【英語版物理探査適用の手引きー土木物理探査マニュアルー(EAGEより2013年発刊)】

「新版 物理探査適用の手引きー土木物理探査マニュアル」の英語版で、国内の技術者が英訳した後、EAGEの校正を経ている。

## 【地下を診る技術「驚異の物理探査」】

物理探査がどのように社会に役立っているのかという視点を重視して、物理探査技術を紹介。一般の方だけでなく、物理探査ユーザーや、社内研修などの教材としても使用可能である。



(物理探査ニュースNo.54)

## 【電子出版】

(1)「学術講演会論文集」DVD版（1970年秋期（第43回）から2008年春期（第118回）までを全てDVDに収録している。）

(2)物理探査1948～2007年DVD版（物理探査学会誌「物理探査」を1948年（Vol.1）から2007年（Vol.60）までDVD1枚に収録している。）

(3)国際シンポジウム予稿集(Proceedings of SEGJ International Symposium)第1回～第8回（国際シンポジウム論文集第1回（1990）から第8回（2006）までをDVDに収録している。）

## 【統合物理探査による地盤物性評価と土木建設分野への適用】

統合物理探査調査研究委員会（2013年1月から2017年12月）により検討・整理し、新たな視点で「物理探査の利用と物理探査による地盤の解釈」についてまとめている。HPから無料でダウンロードできる。

(<https://segj.or.jp/publication/pdf/IntegratedReport.pdf>)



〒101-0031  
東京都千代田区東神田1-5-6 MK 第5ビル2F  
電話・FAX: (03)6804-7500  
E-mail: [office@segj.or.jp](mailto:office@segj.or.jp)  
URL: <https://segj.or.jp/>



# 物理探査学会 要覧

SEGJ  
75<sup>th</sup>  
ANNIVERSARY



公益社団法人 物理探査学会  
The Society of Exploration Geophysicists of Japan



# 沿革と現状

物理探査学会の前身である物理探鉱技術協会は、物理学的・化学的地下探査に関する学問および技術の進歩・発展・普及と会員相互の親睦・連絡を図ることを目的として、1948年（昭和23年）5月に創立された。

創立当初の個人会員は416人、賛助（特別）会員は18社であり、初代会長（委員長）は飯田波事氏であった。また、学会創立に遅れること1か月にして会誌「物理探鉱」第1巻第1号が発刊された。当時の事務局は川崎市にあった商工省地下資源調査所内（後に通商産業省地質調査所、現在、（国研）産総研地質調査総合センター）におかれた。

その後、本学会は我が国の物理探査技術の発展とともに順調に成長している。この間1980年1月には会の名称を物理探鉱技術協会から物理探査学会に、また1986年には会誌名を「物理探鉱」から「物理探査」へと改名した。さらに、地質調査所内に設置されていた事務局は地質調査所の筑波移転に伴い、1979年に東京都港区高輪に、1987年に東京都大田区中馬込へ、さらに2006年に現在の東京都千代田区東神田へと移転した。本学会は2001年12月に文部科学省より社団法人の認可を、その後一般社団法人を経て2013年5月には公益社団法人として内閣府より認定を受けた。そして、年2回の学術講演会や、国際シンポジウムによる研究発表、知識技術の交換、会員相互および内外の関連学会との連携協力等を行うことにより、物理探査学の進歩普及を図り、わが国の学術の発展に寄与することを目的とした法人として活動を行っている。

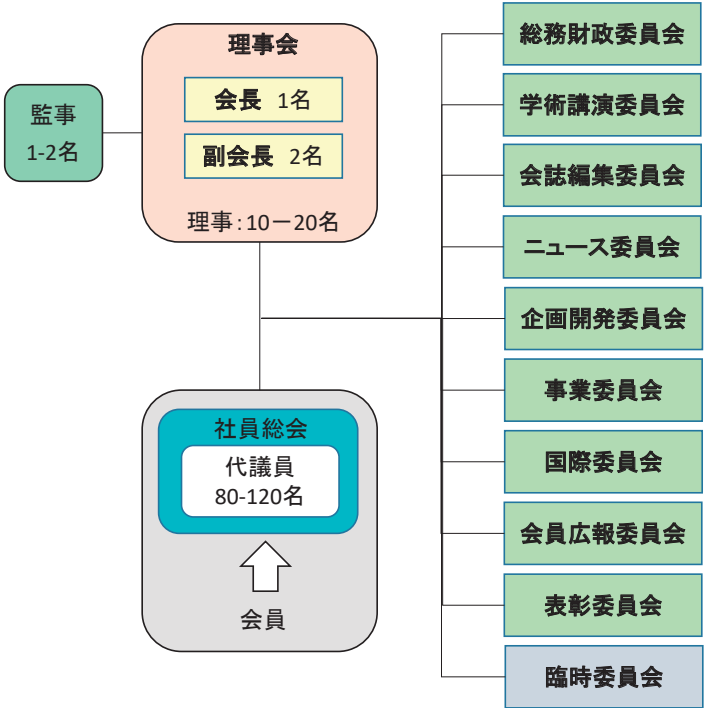
## 組織

本会は、物理探査およびその応用分野に関し学識経験を有する会員および本会の事業を支援する会員により成り立っており、会長をその代表者としている。

全会員の総意を表わす議決機関は社員総会で、これには毎年1回開かれる通常総会と必要に応じて会長が招集する臨時総会がある。

本会の社員は、全会員による選挙で選ばれた代議員80～120名で構成される。本会における役員は社員総会で選ばれた理事10～20名と監事1～2名から成り、会長1名、副会長2名は理事の互選による。また、理事で構成される理事会では会務を遂行し、社員総会では会務を審議する。監事は本会の会務および財産の状況を監査する。

会務の処置には9つの常置委員会が分担してあたり、必要に応じて臨時委員会が設置される。



加えて現在は従来にも増して防災、社会インフラ維持整備、カーボンニュートラル推進等の公益に資する活動を強化している。

また国際活動を活発化し、現在米国物理探査学会、欧州物理探査学会、オーストラリア物理探査学会、韓国物理探査学会、米国環境・土木物理探査学会、ベトナム地球物理学会、中国石油物理探査学会およびインドネシア物理探査学会との協力協定を締結している。2004年には、オーストラリア物理探査学会および韓国物理探査学会との3学会で、英文誌を共同で出版することを開始し、2011年までに8回の特別号を発刊した。2012年から豪州物理探査学会の「Exploration Geophysics」（EG）を継承する形で、三学会共同での英文誌発行を開始している。

2009年より、会員に限らず物理探査技術の理解を広めるために「物理探査ニュース」を年4回発刊している。また、会誌「物理探査」は学術情報の利便性・流通性の向上を目的として、2017年より電子化された。

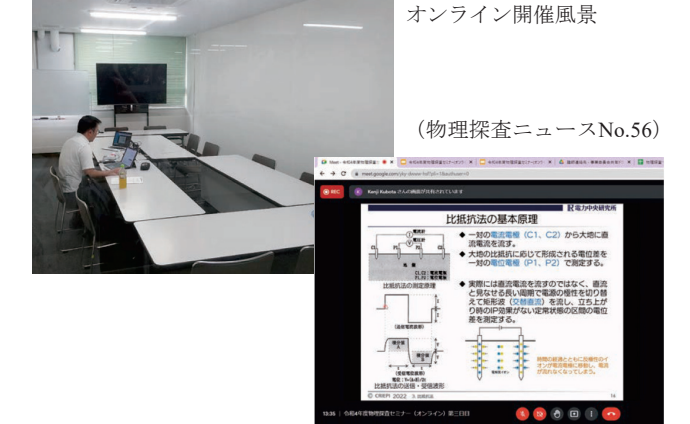
2019年には日本の物理探鉱100周年を記念した講演会を開催した。2020年初頭ころからの新型コロナウイルス蔓延により2020年度春季学術講演会、物理探査セミナーやキャンパスビジットは中止に追い込まれたものの、同年秋頃からは、オンライン或いは現地開催とのハイブリッド開催により再開している。合わせて、学生会員の年会費免除を通じて、コロナ禍による学生会員の収入減対応を行うなど、環境の変化に応じて探査技術の進歩、普及促進に注力している。

# 学会の活動

物理探査の普及や関連学会との協力などを目的として、以下の活動等を行っている。

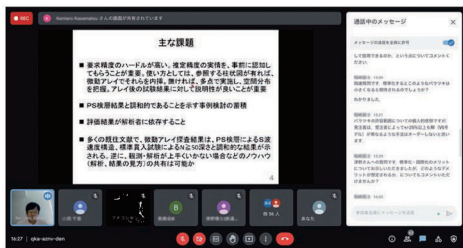
### 【講習会等の開催】

各種探査手法の基礎を講義する物理探査セミナー（3日間）を1985年より開催している。応用例の講義等、テーマを絞ったワンデーセミナーのほかキャンパスビジットを開催している。



オンライン開催風景（物理探査ニュースNo.56）

研究会活動
会員の関心の高い分野・テーマについて調査研究を行うための研究会活動を行う。現在、地盤探査研究会、地震防災研究会が活動を行っている。また必要に応じて研究委員会を立ち上げ、特定のテーマに関する研究を行っている。



オンライン開催のシンポジウム風景（物理探査ニュースNo.52）

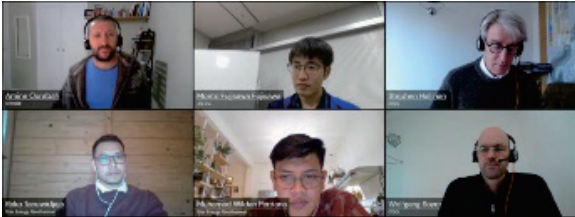
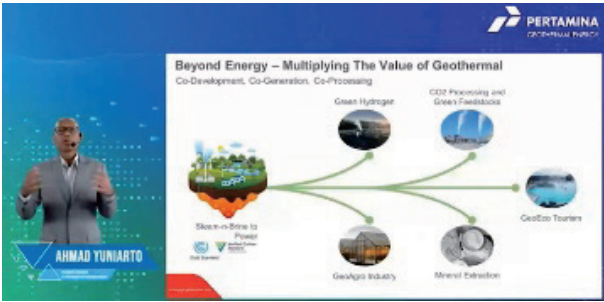
### 【国際交流活動】

海外の物理探査学会との共催により、当学会主催のSEGJ国際シンポジウムを1990年から2～3年毎に開催している。最近では第14回を2021年10月にオンラインで開催した。また、協力協定を締結した海外の物理探査学会と会誌交換や講演会参加による交流を行っている。



### 【海外学会による教育プログラムの日本開催】

SEG（Society of Exploration Geophysicists）やEAGE（European Association of Geoscientists & Engineers）が主催する各種教育プログラムの日本開催を支援し、開催案内・参加者募集・会場運営を行っている。



SEG地熱ワークショップ風景（物理探査ニュースNo.53）

### 【社会貢献事業】

物理探査技術の研究開発・応用開発の成果を社会貢献に役立てることを目的として、受託研究を行っている。また、青少年・一般社会人を対象としたアウトリーチ活動を展開する場の創出を目的として、市民公開講座を開催している。

### 【国内学会との交流】

日本地球惑星科学連合大会で、物理探査に関するセッション開催やブース出展し、物理探査に関して、他学会と交流を行っている。



JpGU物理探査学会デスク展示風景

# 会員サービス

### 【電子ライブラリ】

過去の学術講演会論文集、会誌、国際シンポジウム論文集がPDF化され、キーワードで検索、閲覧、保存が可能である。



### 【SEG Global Meeting Abstractのダウンロードサービス】

当学会会員はSEG Global Meeting Abstractを閲覧できる。SEG Global Meeting Abstractは米国物理探査学会のGlobal MeetingsとConferencesで出版され、多くが4ページで、図を含んでいる。



公益社団法人 物理探査学会

### 【学会刊行物への投稿・参加】

会誌「物理探査」、英文誌「Exploration Geophysics」、学術講演会への会員価格での投稿。「物理探査ニュース」への投稿が可能である。

